

特集2 「コロナ時代」

コロナ時代の国際キャリア教育セミナー

国際キャリア教育プログラム委員会委員長 重田康博

はじめに

国際学部の「国際キャリア教育プログラム」は、学生が働く意味やキャリア教育について日本語で考える「国際キャリア教育」、英語で全て授業を行う「International Career Seminar（以下ICSと呼ぶ）」、国内や海外の企業、公的機関、NGO・NPOでインターンシップを行う「国際キャリア実習」の3科目、6単位で構成されている。国際キャリア教育セミナーは、いずれも夏季の休業期間に行い、講義は3日間の集中講義形式である。講義ではその道のプロの専門家や講師を揃え、実習では国内・海外で魅力的で個性的な研修先を用意している。3科目すべての履修を勧めているが、選択的な受講も可能である。「国際キャリア教育プログラム」は、毎年宇都宮市や栃木県内だけでなく、全国から大学生、社会人が多数参加している。

本稿では、国際キャリア教育とICSを合わせた「国際キャリア教育セミナー（以下セミナーと呼ぶ）の開催状況、開催要因とテーマ設定、コロナ感染禍での開催のあり方、今後の課題について述べていく。

本セミナーの開催状況

本セミナーは、2004年度から2021年度まで過去18回開催され、参加者は合計1940名で、その内宇都宮大学1178名、外部参加者（他大学、社会人、高校生、海外協定大学等）762名であった。2013年から2021年までの本セミナーの参加者数推移は、図1の通り、2019年度は大型台風接近の影響で少なかったが、2014年度以降宇都宮大学と大学コンソーシアムとちぎの主催になってから、参加者は100名前後に落ち着き、2021年度には参加者合計126名になった。

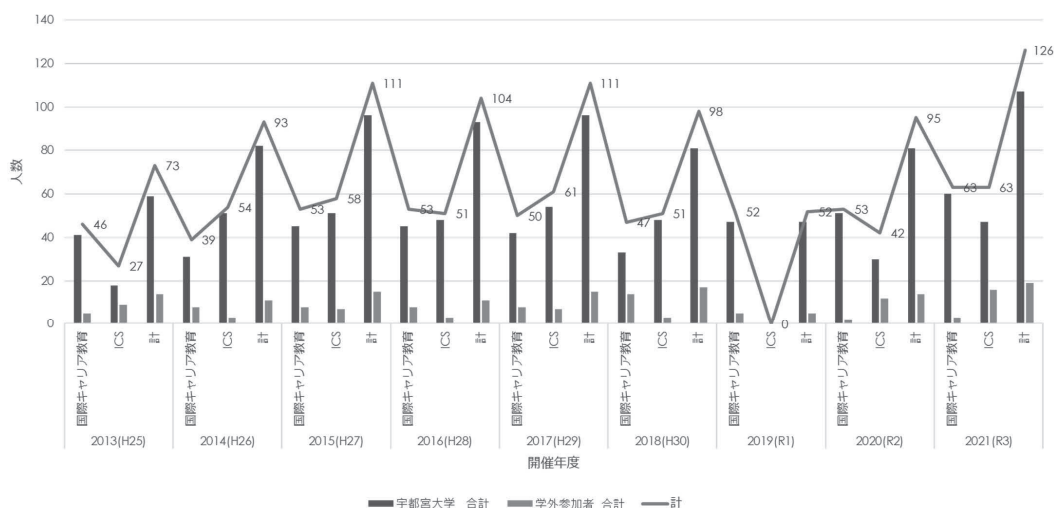


図1 国際キャリア教育セミナー参加者数推移
(2013年-2016年 国際キャリア開発 2017年-2021年国際キャリア教育) 資料作成協力：佐藤裕香

本セミナーの誕生は、2004年度から「国際キャリア開発セミナー」という名称で同年9月25日から9月27日の3日間開催されたことに始まる。開講式は宇都宮大学会館多目的ホールで行い、その後は芳賀青年の家へバスで移動して講義、分科会、全体発表、閉講式を行った。当時の『2004国際キャリア・合宿セミナー報告書』（2004）の中で、本セミナーを立ち上げた企画委員の友松篤信国際学部教授は「国際キャリアセミナーのような企画は、他大学にもその例がある。しかし、豪華な講師陣、二泊三日の合宿、ワークショップ形式による分科会、リラックスしたフェイス・ツー・フェイスの語り合い、市民団体や学生の企画実施への参加は、全国に類例を見ない。今回のキャリアセミナーが、多くの参加者の共感と支持をあつめた所以である。今後は、宇大の「顔」となる全国規模のセミナーとして発展継続していくことが切に望まれる」と最初のセミナーを終えた後の熱い思いを語っている。

その後本セミナーは、宇都宮大学もしくは国際学部の「顔」となって2021年度の今日まで18年間継続されることになる。本企画の推進・実行には、本学、白鷗大学、栃木県、JICA、大学コンソーシアムとちぎ等からの支援に加え、白鷗大学、国際医療福祉大学、作新学院大学などの教員やいっくら国際文化交流会、学生からなる実行委員会を組織して行われていた時期もあった。2009年度から2011年度までの3年間文部科学省の「大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラム」として採択され、宇都宮大学、作新学院大学、白鷗大学、大学コンソーシアムとちぎの連携で実施され、「国際キャリア開発」、「国際実務英語Ⅰ・Ⅱ」、「国際キャリア実習Ⅰ・Ⅱ」の講義が行われた。特に2010年に栃木県立とちぎ海浜自然の家での「国際キャリア開発基礎」には、3大学の学生だけでなく、全国各地から130名が参加した。この

他、同年の「国際実務英語Ⅰ」「国際キャリア開発特論」を合わせると、2010年度の本セミナーには合計260名の参加者があり、2011年3月には10年度の活動実績と評価結果を記した総合報告書が発行された。

文科省の助成終了後本セミナーは、大学の自主運営により白鷗大学と宇都宮大学が分担することになったが、文部科学省の助成終了後の本セミナーは運営的にも人材的にも厳しくなった。2012年度は白鷗大学がセミナー実施担当校になり、とちぎ青少年センター（コンセーレ）で開催し、国際キャリア開発基礎に33名、国際実務英語に9名の参加者があった。2013年以後宇都宮大学、大学コンソーシアムとちぎが主催団体となり、21年度までこの体制が続いている（白鷗大学は2017年まで協力大学となったが現在は大学名は掲載されていない）。2017年度には宇都宮大学国際学部が改組され、国際キャリア教育、ICS、国際キャリア実習は国際キャリア科目として単位化された。さらに国際学部だけでなく、地域デザイン科学部、共同教育学部、工学部、農学部の各学部の卒業単位化を目指し、多くの学部学科で単位を認めてくれたが、中には学部や学科の事情で卒業単位化が難しかったり、単位として認めてくれても卒業単位としては認めない学部学科もあった。さらに各学部の学生数を増やすために、毎年春に対面授業時に各学部の学部長・担当教員の許可を得て実行委員の教員が手分けをして説明に行った時もあった。それだけでなく、実行委員の教員が本セミナーの紹介のために栃木県内の各大学の担当教員や事務員にチラシを持参したこともあった。

また長年本セミナーコーディネーターを務めていた山口陽子氏が5年目で任期を迎え退職することになり、短期間でコーディネーターが変わったり、コーディネーターが決まらず、新コーディネーターの佐藤裕香氏が着任するまで、本セミナーの運営が大変困難な時期があった。

18回開催の要因とテーマの設定

本セミナーが2000人近い参加者を得て18回開催されてきた要因は、①その企画力と経験豊かな講師を探す人材発掘能力があったこと、②国際キャリア教育実行委員会委員、関係者、学生委員だけでなく宇都宮大学、白鷗大学、作新学院大学、大学コンソーシアムとちぎ、JICA、いっくら国際文化交流会、栃木県経済同友会、栃木県青年会館、あしぎん国際交流財団など関係団体の協力と支援があったこと、③時代の変化や大学・学部の変化に合わせたテーマ設定と対応力があったこと、が挙げられる。特に、③のテーマ設定では、2004年の第1回は「国際舞台で活躍をめざす若者たちへ」というテーマで、国際協力や国際交流の分野の国際機関、団体NGOで働くための「知識」「資質」「キャリア」に焦点を当てていた。2009年から2011年の文科省の助成を受けたときは「地域の大学連携による学生の国際キャリア開発プログラム」とし、「大学連携」「英語による語学力」が取り上げられる。2013年度からは、文科省のグローバル人材育成プログラムに合わせて、「グローバル化時代の地域とキャリア」とし、「地域のグローバル化（Globalization）」、「地域のグローバル化（Glocalization）」の2つの柱を立て、「国際ビジネス」「国際協力・国際貢献」「多文化共生と日本」「異文化理解・コミュニケーション」の4つのテーマで分科会を構成するようになった。

その目標は、以下の通りである。

- ①「働く」とはどういうことなのかについて考える。
- ②自分と地域社会や世界とのつながりについて考える。
- ③主体的に関わりたい分野を見つけ、今後の学びに向けた“きっかけ”を得る。

最近のセミナーのテーマは、「グローバル時代のキャリア形成を考える」とし、2017年の国際学部改組に合わせた「多文化共生実現のための国内外で活躍する21世紀型グローバル人材」のグローバル実践力を養う教育システムの中に位置づけられ、従来のグローバル・マインドを養うグローバル人材育成プログラムの延長上にあるといえる。

コロナ感染禍での開催のあり方

さらに、本セミナーは、ここ数年自然災害や感染症パンデミックという時代の変化に見舞われることになる。2019年度のICSは、近年例を見ない最大級の台風20号の関東直撃の影響で開催中止となった。2020年度のセミナーは、新型コロナウイルスの世界及び日本での感染拡大の影響で対面開催が難しくなり、Zoomによるオンライン開催となった。誰がこのようなコロナ感染症パンデミックによって本セミナーが対面で開催できなくなることを予想できたのだろうか。当初はコロナ禍でどのように本セミナーを開催するかを模索したが、国際学部がZoomによるオンライン開催を行うようになり、それにならない本セミナーもZoomによるオンライン開催で行うことになった。

オンライン開催によって、合宿形式の対面のセミナーができなくなったが、逆にオンラインなので日本国内および海外にいる講師が参加できるようになったことは、驚くべき逆説的な発見だったといえる。例えば、英国にサバティカル滞在をしていた本学の長谷川万由美共同教育学部学部教授が国際キャリア教育の2020年7月の説明会に英国から参加したり、2021年度では谷澤壮一郎氏（DNA ASIA Production、元NHKプロデューサー、宇都宮大学国際学部卒業生）がインドネシアから講師としてオンライン参加した。また、2020年度にはICSに、海外の協定校であるスリランカのペラデニヤ大学、マレーシ

アのサラワク大学の学生が一般参加し、両大学の教員の方々にもご挨拶をいただいた。このように本セミナーのオンライン開催には、海外からの講師を招いたり、海外の大学の教員や学生が参加できるなど十分に潜在的可能性があることがわかった。

おわりにー今後に向けての課題

以上コロナ時代の国際キャリア教育セミナーについて述べてきた。本セミナーは過去18回の開催と1900名以上の参加の実績を残してきたが、その道のは試行錯誤の連続で決して楽な道ではなかった。特に本セミナーの18回の開催の中で、①資金的な問題（文科省の助成終了）、②人材的問題（コーディネーターの退職）、③自然災害の問題（ICS開催中止）、④パンデミックの問題（新型コロナ感染症拡大）の4つの問題に直面したりしてきたが、国際

キャリアプログラム運営委員会やコーディネーターの方々の努力や対応力で何とか乗り越えてきた。この他、当初本セミナーを全国規模に展開していく構想もあったが、大風呂敷を広げるのは資金的にも人材的にもむずかしいので、現実的には宇都宮大学の各学部の教員・学生の理解を得ながら、変化に対応できる持続可能なセミナーを目指していくことが肝要である。

最後に、筆者は2022年3月をもって宇都宮大学を定年退職する。本セミナーはこれからのいろいろな困難に直面するかもしれないが、どうか宇都宮大学の協力を得ながら、同運営委員会の結束力と国際学部の協力で乗り越えて欲しい。長年国際キャリア教育プログラムを支えていただいた運営委員の皆さん、同プログラムのコーディネーター山口陽子氏、光永淳子氏、佐藤裕香氏には心からお礼を申し上げたい。

